

報 告 書 抄 録

ふりがな	さこんだいせき2 (2、3、4くのちょうさ)							
書名	左近田遺跡2 (2、3、4区の調査)							
副書名	折尾土地区画整理事業(東側・鉄道跡地地区)に伴う埋蔵文化財調査報告							
巻次	2							
シリーズ名	北九州市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第612集							
編著者名	山口裕子							
編集機関	(公財)北九州市芸術文化振興財団 埋蔵文化財調査室							
所在地	〒803-0816 北九州市小倉北区金田一丁目1番3号 TEL093-582-0941							
発行年月日	西暦2022年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さこんだいせき 左近田遺跡 2、3、4区	ふくおかけんきたきゅうしゅうし 福岡県北九州市 やはたにしくとうちく 八幡西区東筑 1丁目	40100	7173	33° 51' 39".70	130° 42' 47".93	20200803 ～ 20200925	1,200	折尾土地区画 整理事業(東 側・鉄道跡地 地区)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
左近田遺跡 2、3、4区	集落跡	古墳時代～ 近世	遺物包含層、土坑、 溝状遺構、ピット、 礎石、石列、井戸、 石組状遺構など		土師器、須恵器、製 塩土器、土馬、青磁、 白磁、陶磁器など			
要約	<p>本遺跡は洞海湾の最奥部、遠賀川東岸に広がる低丘陵地帯に位置している。調査区は丘陵裾部と低地にあり、標高は約2～4mである。</p> <p>2区では前年度調査した1区の丘陵部が続いており、この裾部に遺物包含層が堆積している。古墳時代～中世の多くの遺物を含んでおり、中には完形品に近いものも見られる。丘陵部は削平を受けていると見られ、表土直下に岩盤があり、ここではピットなどの遺構を検出した。また、包含層の上面では径が1～3mほどの大型の土坑を十数基確認した。土坑は平面形が円形や楕円形もしくは隅丸方形を呈する。そのうちの1基には中世の土師器坏がまとまって確認され、これらの多くはほぼ完形品で、廃棄されたような状態で出土した。また、床面に近い部分では漆器碗が出土している。3区は2区の南側に広がる低地部分で常に丘陵からの湧水がある。現地表より、1m下にて包含層が確認されているが、遺物の量は多くない。この遺物包含層からは土馬が1体出土している。土馬は1区でも2個体分出土しており、また、近世に開削された堀川を挟んで、西側に位置する菅原神社遺跡においても1体出土していることから、この折尾地区だけで計4体の土馬が出土しており、特異な状況である。4区は堀川に近い平野部にあたり、青灰色粘土の包含層が確認されている。この上面には褐色系の整地層が確認でき、これらには近世の遺物がわずかに含まれる。整地層上面には礎石や石列、板石を利用した八角形の井戸が確認でき、礎石建ちの建物の存在が窺われる。</p> <p>これらの成果は当地域の集落の変遷を考える上で重要な資料であると言える。</p>							